

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2012

課題番号：23720321

研究課題名（和文） 家畜預託慣行の史的研究

研究課題名（英文） Historical study of the Depository Practice of Domestic Animals

研究代表者 板垣 貴志（ITAGAKI TAKASHI）

神戸大学・大学院人文学研究科・特命助教

研究者番号：80588385

研究成果の概要（和文）：本研究では、家畜預託慣行が近代日本農村において果たしていた歴史的意義を解明した。具体的には、農業災害補償制度などの法制度整備過程および実施後の経過に関する資料群を中心に分析し、それら法整備の進展と家畜預託慣行の衰退との代替関係を明らかにした。家畜預託慣行は、家畜市場をめぐる法整備および金融市場、保険市場ともに未発達であった当時の農村社会において、それを補完し農民の営農や生活を保障するインフォーマルな社会制度であったとの結論に至った。

研究成果の概要（英文）：In this research, the historical meaning which the Depository Practice of Domestic Animals could set in the modern Japan, and had achieved was solved. It analyzed focusing on improvement-of-legal-systems processes, such as an agricultural disaster indemnity system, and the data group about the progress after enforcement, and, specifically, clarified alternative relation between progress of these development of laws, and a decline of a Depository Practice of Domestic Animals. The Depository Practice of Domestic Animals resulted in the conclusion that it was an informal social system against which the development of laws involving a stock market, a financial market, and an insurance market complement it, and secure a farmer's farming and a life in the underdeveloped rural society of those days.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：日本史

キーワード：家畜預託慣行、家畜小作、有畜農業、畜産業、農業史、牛、馬、中国山地

1. 研究開始当初の背景

従来の農業史研究が、明治以降の日本農業の展開において、湿田の乾田化と、それにもなう牛馬耕の広範な普及を重視してきたことは周知のことである。しかし、その主役となった役牛馬の生産育成過程に関する研究は極めて少なく、その問題性を指摘されることもなかった。牛馬耕の普及によって、役牛馬の需要は着実に増加していった。にもかかわらず、それに応える役牛馬の生産育成過

程とはいかなるものであったか。また、どんな人々によって担われていたのか。このような基本的なことすら明らかにされてこなかったと言えよう。

役牛馬は、古くから生産地と使役消費地との地域的分化が進行し、広域に及ぶ遠隔地取引があったと言われる。一般に山間部や島嶼が、牛馬の生産地となっているが、とりわけ、一大使役消費地であった畿内に隣接していた中国山地は、役牛の商品化が進展し、それを象徴するような巨大牛馬市が集中してい

た。そのような中国山地においては、大牛持、牛親方などと呼ばれる、家畜を大規模に所有する者が存在し、家畜預託慣行が広範に行われており、その存在は、自治体史や郷土史、民俗誌などで断片的に記述されることはあったものの、本格的に研究されることもなく、その全体像はほとんど明らかになっていなかった。日本農業近代化を下支えした、役牛馬の生産育成現場の実態と、その歴史的意義を解明する意義は大きい。

2. 研究の目的

これまで島根県飯石郡鍋山村の大牛持板垣家の史料群を用いて実証研究を重ねてきた。本研究は、家畜預託慣行の果たしていた歴史的意義を解明し、近代日本農村史の中に位置付ける。

その上で、歴史学、歴史地理学、民俗学、農業経済学、家畜改良学等々、分散的になっている畜産史の学説史を整理し、再構築する。

3. 研究の方法

本研究は、家畜預託慣行を統計資料レベルではなく、大牛持の経営実態レベルでミクロに分析することを主な方法とする。

また、2つの分析視角を設定する。

(1) 家畜を富としてみる視角

従来の農業史研究では、家畜を耕耘・運搬といった労働手段としてのみ捉え語られてきた。しかし、そもそも家畜は、自身増殖もする、極めて特殊で高価な動産である。本来、家畜は富としての性格を持ちあわせているのであり、あえて換言するならば、「家の蓄え」であった。生産地域社会内においては、蓄財手段、金融手段として、独自の歴史的役割を果たしていたことを本研究は浮き彫りにする。

(2) 品種改良の視角

中国山地では世界史的にみても品種改良の先駆である蔓牛(血統)が造成されていた。本研究では、改良へのエネルギーを生み出した社会経済的背景や、その必然性を地域社会の問題と関わらせながら明らかにする。

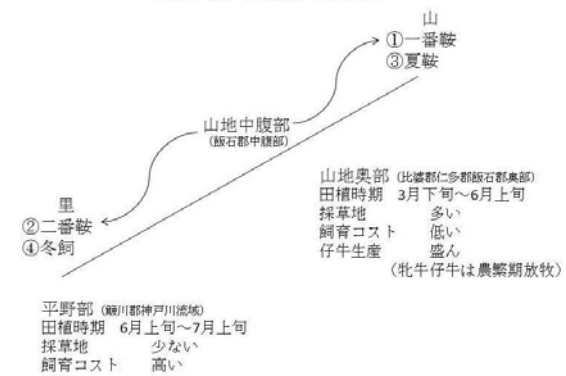
【中国地方畜産地帯図】石田寛『農業地域における牧畜』『生態地理学』1961、第12図。

- 1 柵に囲われた集落 2 刈跡放牧
- 3 一番鞍下牛借入地 4 一番鞍の移動
- 5 二番鞍の移動 6 放牧生産核心地
- 7 肥育地帯 8 育成地帯
- 9 舎飼生産地帯 10 使役肥育地帯



4. 研究成果

図5-2 鞍下牛循環サイクル図



【鞍下牛循環サイクル図】

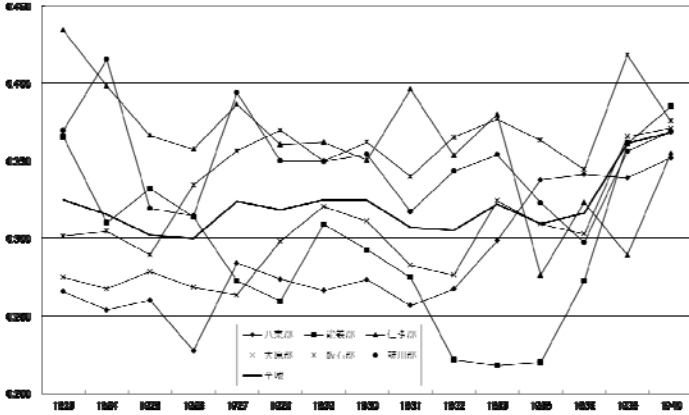
1930年代より家畜預託慣行は衰退するが、それに代替したものを明らかにする作業から、戦後の農業災害補償制度の源流ともなっている農業関連の保険・金融政策に着目することにつながった。

島根県における家畜保険加入牛頭数推移

西暦	和暦	加入牛頭数	県下牛頭数	加入率
1931	昭和6年	1,003	59,021	2%
1932	昭和7年	3,895	59,489	7%
1933	昭和8年	6,257	59,699	10%
1934	昭和9年	14,053	60,705	23%
1935	昭和10年	17,807	63,489	28%
1936	昭和11年	22,415	66,540	34%
1937	昭和12年	25,769	68,833	37%
1938	昭和13年	26,969	68,230	40%
1939	昭和14年	26,713	68,230	39%
1940	昭和15年	26,934	69,721	39%

注)『島根県統計書』と『農業災害補償制度史 統計編』より作成。

その結果、農村社会における家畜の預託は、預ける側と預かる側の両者にとって相互扶助的な慣行的側面と、副業的利益追求を目的とする経営的側面が融合したものと捉えるべきもので、家畜市場をめぐる法整備および金融市場、保険市場ともに未発達であった当時の農村社会において、それを補完し農民の営農や生活、つまりは《生存》を保障するインフォーマルな社会制度であったとの結論に至った。



【1930年代に畜産の均一化】

1年間の牛飼育費用－1888年調査報告－

牛種	乳牛				使役牛				蕃殖牛		
	外国種	雑種			内国種				出雲	石見	隠岐
地域	出雲	出雲	出雲	石見	隠岐	出雲	石見	隠岐	出雲	石見	隠岐
飼料費 (円)	生草	1.980	1.350	0.937	4.834	7.816	2.586	4.402	6.100	3.174	2.996
	乾草	1.800	1.200	1.345	0.456	3.600	1.293	1.060		1.057	1.800
	米藁	7.200	5.400	3.317	5.924	0.960	3.419	2.193	0.650	2.428	2.056
	麦				4.348		0.851			1.047	1.074
	米糠		1.890	6.913	1.307	5.040	2.216	1.095	1.100	1.675	0.537
	糶						0.546			0.650	
	雑穀							0.635	0.450		
	味噌					3.375					
	白米					9.900					
	藪	16.200	7.200	4.350	7.892						
	甘藷	3.500	2.250	1.525							
	豆腐粕				1.243						
飼料費計	30.680	19.290	18.387	26.004	30.691	10.911	9.385	8.300	10.031	8.463	
諸雑費 (円)	取扱費	27.000	18.900	9.489	9.909	23.448	6.290	4.805	4.206	3.538	0.900
	敷草							1.125			
	敷藁				1.085	2.064	1.172	0.887	0.651		
	畜舎修繕費	1.800	1.800	1.450	1.500	1.000	0.276	0.343	0.850	0.249	0.404
	交尾料	1.000	0.500						0.210	0.200	
	薪炭費		0.900				1.803				
	泌乳絶止後飼料費	36.000									
	其他	11.800	21.000	2.261	9.168	1.230	1.162	0.750	0.675	0.150	
	諸雑費計	77.600	43.100	13.200	21.662	25.678	9.792	9.998	5.450	6.227	4.943
	総費用(円)	108.280	62.390	31.587	47.666	56.369	20.703	19.383	13.750	16.258	13.406

注) 『農業災害補償制度史資料集』(第21号、農林省農林経済局、1960年)収録の『明治二十一年農事調査抄録 畜産及び獣医』をもとに作成。

【乳牛・役肉牛の飼料構造の変化】

厩先への利益分配率推移【仕社別】						厩先への利益分配率推移【地域別】								
社 (計252件)		1/2以上の割合		仕 (計399件)		1/2以上の割合		鎮山村 (計204件)			山地農部 (計68件)			
~1/4	1/3	1/2	1/2~	~1/4	1/3	1/2	1/2~	1/4	1/3	1/2	1/2~	~1/4	1/3	1/2
1			0%	2				1887						
				2				1888						
				1				1889	1					
				2			0%	1890						
				2			0%	1891						
				2			0%	1892					1	
				2			0%	1893					1	
1			0%					1894						
				2			0%	1895	1					
3			0%	2			0%	1896	2					
				1			0%	1897	1					
	1		100%					1898						
2	1	1	25%	2			0%	1899		1				
	1		100%	3	1		0%	1900	2					
				3			0%	1901	1					
	1		100%	4	1		0%	1902	3					
				3			1	25%	1903	2			1	
1	3		0%	2		1	33%	1904	1	2				1
	3		0%	6			0%	1905	3	2				
	1		0%	3	1	2	33%	1906	1					1
1	4	1	17%	5	1	3	33%	1907	3	3	1			
1	4	2	1	38%	8	1	10%	1908	5	3				1
				7			100%	1909	3					1
				1	4		80%	1910	5	1				1
				2	8		80%	1911	2	2	2		1	1
				7	1		100%	1912	4	3	1			3
				4			100%	1913	7	1				2
				2			100%	1914	5	1				
				3			100%	1915	1	3				
				1	3		75%	1916	1	4				2
				6			100%	1917	1	4				1
				1	4		80%	1918	2	1				1
				5			100%	1919	1	4				2
				8			100%	1920	2	3				4
				9			100%	1921	4	3				3
				7	1		100%	1922	7					5
				4			100%	1923	5					2
				2			100%	1924	5					2
1	3		75%	1	10		91%	1925	4			2		
	6		100%	8			100%	1926	3				2	
	2		100%	6			100%	1927	3					
	11		100%	8			100%	1928	4	1			1	2
	8		100%	3			100%	1929	4					1
1	6		86%	6			100%	1930	3					1
	6	1	100%	9			100%	1931	2	1				1
	8		100%				100%	1932		1				1
	7		100%	7			100%	1933	3					
	10		100%	7			100%	1934	5					3
	8		100%	5			100%	1935	4					1
	10		100%		9		100%	1936		7				3
	7		100%		8		100%	1937		5				2
	6		100%		13		100%	1938		6				2
	7		100%		9		100%	1939		7				3
	8		100%		3	1	100%	1940		3	1			1
	2		100%		12		100%	1941		4				
	4		100%		5		100%	1942		4				
	2		100%					1943		1				
	1		100%					1944		1				
	1		100%					1945		1				
	1		100%					1946						

注) 1) 「板垣家文書」牛経営帳簿①E-2 ③D-259 ④I-7 ⑦I-18 ⑧I-21 ⑨I-22 ⑩I-5 ⑪M-21 ⑫I-4 ⑬I-15 ⑭I-33 ⑮I-14 23I-28 24I-20 25I-19 26M-22より作成。

【預け牛における利益分配率の推移】



【牛の地蔵さん】(フィールドワーク成果)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

(1) 板垣貴志、家畜預託慣行の史的考察—「家畜小作」概念の再検討—、『経済史研究』、査読無、第15巻、2011年、pp155-178

(2) 板垣貴志、1930年代における日本農政の転換と家畜預託慣行、『ヒストリア』、第235号、2012年、pp215-138

[学会発表] (計2件)

(1) 板垣貴志、中国山地の預け牛関係にみる信頼・保険・金融—牛生産地域におけるインフォーマルな社会制度—、日本農業史学会、2012年3月28日、九州大学

(2) 板垣貴志、1930年代における日本農政の転換と家畜預託慣行、大阪歴史学会、2012年06月24日、大阪商業大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

板垣 貴志 (ITAGAKI TAKASHI)

神戸大学・大学院人文学研究科・特命助教
研究者番号：80588385